

平成23年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大入島）

1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

協定締結集落名：大入島漁業集落

交付金額：8,568千円

協定参加世帯数：63人（うち漁業世帯63世帯）

2. 協定締結の経緯

漁業が基幹産業である大入島においては、漁船漁業や養殖業等様々な漁業種類が営まれている。しかしながら、近年、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま推移すれば島の漁業は一層衰退し、集落の担う多面的機能が失われていく懸念がある。

そこで、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組む環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施することで漁業の再生を図るため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

海底清掃等により漁場環境の保全に努めるとともに、種苗放流により資源の維持、増大を図った。

活動内容	実施日	参加漁船(隻)	経費(円)
海底清掃	8月1日～8月5日	75	3,992,300

活動内容	放流数(尾・個)	サイズ(mm)	経費(円)	
種苗放流	カサゴ	10,000	53	545,000
	トラフグ	10,834	50	702,500
	アワビ	36,794	32～42	3,150,000
	計	57,628		4,397,500

活動内容	実施日	数量	経費(円)
底質改良剤の散布	10月25日	底質改良剤「クリアウォーター」10,200kg	2,088,125

活動内容	実施日	数量	経費(円)
ワカメ種糸ロープ設置	11月25日	ワカメ種糸900m	187,164

②集落の創意工夫を活かした新たな取組状況

活ハモの流通改善をはかるため、活かし箱出荷や活かしネット出荷試験に取り組んだ。

4. 取組の成果

海底清掃(耕耘)を実施することにより、海底のゴミが除去されるとともに、硬化しつつあった底質が軟化し、漁場環境の改善を図ることができた。これにより、魚介類幼稚仔の生息域の拡大、特にクルマエビの漁獲量増大が期待されている。

種苗放流においては、アワビ等商品価値が高かつ定着性の魚種を放流したことにより、数年後の水揚金額の増大が期待されている。

養殖漁場の水質・底質の改善を図ることを目的として、底質改良剤の散布をおこなった。これにより、近年多くの漁業被害をもたらしている赤潮の抑制等、漁場の環境改善効果があるのではないかと考えられている。

藻場の維持・管理を図るため、ワカメ種糸ロープの設置をおこなった。近年縮小傾向にあるワカメ藻場の回復を促すことができた。

また、活かし箱等を活用したハモの流通改善に取り組むことにより、活ハモの付加価値向上を図ることができた。



H23.7.4 トラフグ種苗放流



H23.8.3 底曳漁船による海底清掃



H23.10.25 底質改良剤の散布



H23.11.25 ワカメ種糸ロープ設置



H23.8.2 ハモ活かしネット出荷試験